空き家に住む

神奈川県から戸馳島へ――人柄に惚（ほ）れ、移り住む

1 昔ながらの平屋造り　**2** 欲しかった農地は充分すぎるほど。何を植えるか検討中　**3** 押し入れはそのまま棚代わりに　**4** 12畳の広々とした和室　**5** 戸馳島の人たちともすぐに溶け込み、充実した生活を送る　**6** 表札は佐藤さんの手作り

縁側は1日中日当たりが良く、風通しが良い

キッチンと床も改修し、白を基調として洗練された雰囲気に

タイル張りだったお風呂もシステムバスに一新

佐藤 治彦（はるひこ） さん（62）

戸馳の空き家に住む

仕事を退職し、5月に神奈川県から三角町の戸馳島に移住した佐藤さん。三角町から天草付近で物件を探していました。物件を決めたポイントは立地。波多浦駅から自宅まで歩いて20分と近い距離にあること、水害・土砂崩れなどの災害の心配が少ないこと、天草付近よりも電車や車などを使用しての熊本市内へのアクセスが良いことが佐藤さんの条件に合っていたと言います。

そして何より戸馳島の人たちの人柄に惚れて移住を決意しました。「うれしいことに、朝からランニングをしていると島の皆さんがあいさつしてくれるんです。お年寄りから子どもまで関係なく僕に話し掛けてくれます。ゴミの分別の仕方などで分からないことは近所の人が親切に教えてくれますし、住んでみて改めて戸馳島の良さを実感しています。」

また、50坪程の広大な農地や物件の日当たりと風通しの良さもお気に入り。隣近所が少し離れているので周囲にあまり気を遣わなくて良かったり、ゴミ捨て場が近いのも住みやすいと話します。

自身が思う空き家の魅力

「この空き家の良いところは自分の好きなように手を加えられるところ。」と話す佐藤さんは、市の補助金を使って空き家を改修。風呂やキッチンは一新し、和室は洋室に変更しました。「前から自分の畑が欲しかったので農地が付いていてうれしいです。今後は畑をきれいにして野菜や果物などいろいろ植えて育ててみたい。家も壁に漆喰（しっくい）を塗ったり、押し入れにベニヤを張ったりと、やりたいことがたくさんあります。」とこれからの計画は盛りだくさんです。